

平成30年度第3回一関市総合計画審議会会議録

1 会議名 平成30年度第3回一関市総合計画審議会

2 開催日時 平成31年3月8日（金）午前10時から正午まで

3 開催場所 一関市役所 会議室棟第3会議室

4 出席者

(1) 委員

芦宏、砂金文昭、伊藤一樹、太田久美、大沼佐樹子、菅野佳弘、小岩邦弘（会長）、佐藤弘子、東海林訓、菅原君代、菅原敏、菅原行奈、菅原正弘、千田久美子、千田博、千葉哲夫、辻山慶治、徳谷喜久子（副会長）、中尾彩子、畠山育美、原田哲、三浦幹夫、水谷みさえ、吉田正弘、若山義典

欠席委員 阿部新一、小山亜希子

(2) 事務局

石川隆明市長公室長、佐藤正幸政策企画課長、小野寺愛人総務部財政課長
佐藤マチ子政策企画課主幹、宍戸勝幸政策企画課政策企画係長、
鈴木隆稔財政課主任主事

5 議題

(1) 平成31年度予算について

(2) 総合計画実施計画（平成31・32・33年度）について

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者の数 1人（報道機関）

8 挨拶

佐藤副市長挨拶

総合計画は市の総合的な最上位の計画であり、現在の前期計画は、平成28年度から5年間の計画期間で、現在中間年で来年度が4年目となる。総合計画審議会では、計画に掲げる取組の推進に当たり、施策の進捗状況や重点的に実施すべき事業について、ご意見をいただくこととしている。委員の皆様には、今後2年間、計画に掲げた施策の進捗状況の検証とその後を見据えたご意見によりご協力をいただきたい。

9 会長、副会長選出

会長に小岩邦弘委員、副会長に徳谷喜久子委員が選出された。

(1) 小岩邦弘会長挨拶

これからの一関市を考えるため、当審議会が市の行政のチェック機能としてだけでなく、将来を見据えていくことが大切であるので、よろしくお願ひしたい。

(2) 徳谷喜久子副会長挨拶

女性委員には、女性ならではの意見をたくさん出していただきたいと思います。活発な意見交換を行うことができる会議にしていきたい。

10 審議内容

(1) 平成31年度予算について 及び

(2) 総合計画実施計画（平成31・32・33年度）について

事務局が、資料No.7「平成31年度予算の概要」、資料No.8「総合計画実施計画（H31・H32・H33年度）」に基づき説明を行った。

以下、委員からの意見等。

委員 消費税増税に係る予算への影響はどうか。

事務局 工事や委託等に係るものがあり、予算に加味しているところである。

委員 「ローリング」の言葉の意味が分かりにくい。専門用語については、分かりやすく注釈をつけるなどしてほしい。

委員 この審議会は、将来の計画について語る場なのか、それとも、現在行っている施策についての意見交換を行う場なのか。

事務局 両方である。今どのような分野に力を入れればよいかという具体的なことを話していただく、又は、後期計画の策定に向けて将来への視点を持ったお話をしていただくことにより、それらのご意見を参考にして次年度の施策の組み立てを検討するということである。

委員 地域協働体による地域づくり計画は、実施計画とリンクしているのか。また、市民センターの指定管理による財政的な効果はどうか。

事務局 地域づくり計画と実施計画の関係については、実施計画作成の際に、各分野の担当が、地域の事情を考慮しつつも全体のバランスを見ながら調整していくものであり、地域づくり計画が実施計画に直接的にシステムの結びついていくものにはなっていない。

計画だけでなく、昨年度から、地域の暮らしを考える会として、地域で持つ課題について話し合うための場を設け、各担当部で地域の声を施策に反映させるようにしているところである。

事務局 指定管理による財政的な効果については、資料No.7「平成31年度予算の概要」の23ページのとおりである。

委員 指定管理料のほか事業費も含め、予算的に市民センターの柔軟な運営ができるように検討してほしい。

事務局 人件費や施設管理の委託として指定管理料があり、その他に、ひとまち応援

金（地域協働体活動費補助金）や元気な地域づくり事業があるので、それらを活用して地域づくり活動や地域の課題解決に取り組んでほしいと考える。

委員 人口減少が大きな課題となっており、若者や子育て世代に向けた施策を前面に出しているが、高齢者が活躍できるまちづくりも必要である。高齢者施策についても分かるようにしてほしい。また、NECと北上製紙の撤退については、予算に影響があるか。

事務局 高齢者関係の事業については、重点事業以外にも、公共交通に係る検討や住宅支援など様々な取組を展開しているところである。NECと北上製紙の関係については、市税は、31年度は前年度の実績での課税となるため、影響は32年度からとなる見込である。

委員 NECの離職者への支援を充実させてほしい。NECの跡地利用については、まちづくりの計画として、しっかり検討してほしい。文化財保護について、地元を離れた若者が地元で自信を持てるようなまちにする必要がある。メンテナンスのための予算だけでなく、これから市の宝を作っていくことが必要である。市の宝の一つとして、千葉胤秀（和算）関係の予算があるが、今後の展開まで考えていかなければならないと考える。骨寺村荘園遺跡の世界遺産の拡張登録については、多方面から作戦の検討がなされるべきと考える。また、渋民の民俗資料館のように廃校を活用しての取組を各地域に広めていくのがよいと思う。このような取組について、国の交付金等を活用すると行いやすいのではないかと。

委員 実施計画の総括表で金額が0とある部分について、実際はどのようなのか。

事務局 総括表の金額が0だから事業をやらないのではなく、実施計画に載っていないだけで、通常の事務事業として行われているものである。

委員 スクールバスの高齢者の利用について、どのようにしたら地域で利用できるのか更に検討してほしい。観光と国際交流について、インバウンドだけでなく国内に住んでいる外国人向けにも多様な食文化に対応した情報発信をしたり、対応するお店を認証制にしたりするような工夫が必要であると考えます。

委員 市の制度の周知について、市民への周知はもちろん、市外への周知にも力を入れるべきである。「日本一の子育て村を目指す」としている自治体があるが、施策を比較してみると、当市でもその位の宣伝をしてもいいのではないかとと思う。情報をうまく発信していくことが、移住定住の推進につながる。

委員 会議の進行について考えてほしい。事務局の説明を短くするとか、事前に質問を集めておくなどしてほしい。

事務局 文化財について、若者が地域を知ることが戻ってくることに繋がるとい

ことは、市としても認識しているところである。千葉胤秀住宅の活用については、まず調査をして、調査後にどのような活用をしていくかについて検討していくこととしている。NEC関係については、離職者についてできるだけ一関から通えるようにということを意識しており、関係機関と情報共有を図っているところである。NECの跡地利用については、体育館とテニスコートは取得済である。他の部分については、市としては、一関市のまちづくりに重要な場所であるということで、協議を続けていくということにしている。世界遺産の拡張登録については、県や関係市町と足並みをそろえて取組を進めていくこととしている。スクールバスの高齢者の利用については、スクールバス導入時に国の補助を活用していたという背景がある。地域公共交通については、来年度からの5年間の地域公共交通網形成計画が策定される。各種制度の情報発信については、今後引き続き進めていくこととしたい。

11 担当課 市長公室政策企画課